

愛珠

思い出出ずるままに (五)



中 村 道 子

(3) 転任後半年の経験

第二学期も楽しい日々を過ごしたが、今日十月の五日、鉄の供出をいってきたので、私は好機とばかり、花壇の周圍に立っている鉄材と、それを繋ぐ鉄棒や、応接室の前を走らせていたポートのレールを取り外し、全部提出することにした。「先生、藤棚の柱はよろしおますか」と尋ねられ、「そうそう忘れていました」着任早々、この材を取り除くことは、機会をみなければと思っていたが、このたびは遠慮なく、実行することができて嬉しかった。この仕事は先生や小使いさんたちにできない仕事だから、出入りの手伝いさんに依頼して、鉄類は全部焼き切ってもらい、藤棚は

あまり太くない丸太を焼いて代用にしてもらったのである。

くいを取り除くと、同じ広さの運動場だが、たいそう広くなったような感じがして気持がよかった。今幼稚園の周圍に高層建築が建ち並んでいるから、保育中に光線がはいることはないので、来春には藤の剪定をして、室内を、もう少し明るくしよう――。

ちょうど一か月の後、供出の鉄を指定の場所へ持参するよう通知があったから、校務員が荷車で四回運んだ時、「ほう！さすが愛珠で、この鉄はなかなか質がよろしいなア」と係員がいったと、にっこり広瀬さんは笑ったが、設立当時の物には、十分な吟味が払われていることを、この時も知ったのである。

着任以来、永年保存として、年々書き加えられている沿革史と、滝山さんが稲葉園長に送られた、沿革の記憶として書かれ

た和本のものと、二冊共読んで、創設幹事はもとより、それに関与せられた、平野町三丁目外二十箇町の連合町会幹事十五名の誰もが、誠実を旨としてなされている。さればこそ、これだけのものができたのだと実に敬服し、これらの方々の真心を長く伝え、自他共に学びたいと念願しているので、私は火災を一番恐れ、長田新先生のご警告は片時も忘れていない。

あの倉庫を資料室に設備するまで当分茶箱の中に資料を納めて、地下室に置くこととし、園内全員の心得として、一旦火災が起れば、倉庫に放水集注してもらうよう、消防員に依頼することを第一の心得と約束した。

この時分から戦況の情報は、余談を許さぬ形勢になってきたように思ったが、果たせるかな、今日八日未明に、英米両国に宣戦を布告し、やや戦時態勢にはいった。すなわち太平洋戦争が始まったのである。私たちはいっそう腹を締め、園内の処理や幼児たちの避難には細心考慮した。電話連絡がきて、午後三時から御津幼稚園で園長会があり、続いて六時から金剛小学校で、全市校園長会が開かれ、市川教育部長から、戦時態勢の訓辞があった。それは空襲に備える諸注意で、今日から日直時間を延長し、宿直員も二人に増し、水槽も準備し、特に光線の遮断には、詳細に注意をせられたのである。

翌朝、私は保育前に、全職員にこのことを報告して、遺憾なく準備しようとする約束した。そして老人や幼児の疎開で、園児も大分少なくなっていたから、特に今日は四組を二組に合併して、先生の手を二人あげ、小使室や宿直室、それに園長室などに暗幕を張り、幅一寸に白紙をたくさん切って、数知れぬ硝子窓にX型に貼っていった。

校務員は、園内のバケツ以外に、市場へ行って、なお十五個も買い集め、水を張って所要所へならべた。水槽替りに、ドラム罐、鹽、樋の水溜、何でも水の溜まる物は、皆間に合わせた。倉庫の地下室を防空壕に当てられることは、何よりの幸いで、安心だったし、また、大きい暗幕のあったことも大助かりであった。遊戯室の窓に張っていた幕は、赤い裏まで着いていて、いっそう完全でほんとに嬉しかった。

園舎の整備は大体終えたので、教育資料やその他重要物は、それぞれ木箱に納めて地下室に置き、時を得て、郊外へ疎開したいと思った。何分、全国にない史的な物であるから、万一紛失した場合は、取り返しのつかないことで、何とも申し訳ない失態を起こすから、日々人の目の届く、しかも市内から相当の距離をもって、その上嚴重である倉庫へ預けたいと一心に思った。

四、五日たった日の午後、遊戯室に草履の急ぎ足音がして、「先

生ノえらいことになりましたなア、子どもたちは皆来てはりますか？今日幼稚園の門をはいったら、暗幕が吊してあるし、窓には紙が貼つてあるし、胸がどきつとしましたが、それにあそこやここにバケツは並んでゐるし、花壇の鉄棒は皆取り除けはったし、まあびっくりりましたが、家^{うち}らの方のことを思うたら、えらい違いでんが。家^{うち}らの方はのん気でんなア」「そうですか」「何を考えたりしますねん？」「え？あのな幼稚園の宝をどこへ預けようかと、預ける家を考えてますねん？」「山口さんは豊中でしたなア。ここよりもずっと田舎で、大きい倉を持っていて茶箱を預かつて下さるようなお家はありますか。山口さん考えてちょうだいなア、貴女のお家の近くでも!!」「茶箱の物とは、どんな宝でんねん？」

「貴女が見なざつたら、なんや!!しょうもない、こんな古本と思いなさるようなものですけど、日本には他にもう有りませんねん。昔の幼稚園のことが書いてありましてな、どれもこれも、皆昔の本で、今はもう無い物や。有つても少ない物でしたなア、これが愛珠の宝ですねん。どこの家でも、倉にはいろいろたくさんはいつて、ちょっとした物でも預かるのは嫌でっしゃろうし。昨今の時節柄、なおのこと迷惑やから、広い余裕のある倉でないど、頼まれしませんよつて、貴女の家の方にありませんかなア」「先

生!!宝といいはるのは、ほんまに本ですか、遊戯場に並んでた本ですか」「そうです、あれですねん。皆が笑うような薄障い物ですがなア」

「あれでつか!!そんなら家で預りまよか。宝といいはるさかい、何やと思うて、大切な物やつたら、預かつて間違いがあつたら心配やから、返事をようしまへなんでん。それやつたら預かつたげますで、心配しはることはおません。広い大きい倉が二棟ありますねん。何もおませんが、広いからなんぼうでも入りますで。まわりに家はなし、ぼつんぼつんと二個建つてますよつて、火事に逢うことはないし、錠が締まりますよつて、盗^{ぬす}つて人の用心もよろしいで」

「まアそう!! ああ嬉し!! そんなら預かつて下さるか、ああ嬉し!! ご主人は許して下さいるかしら?」「主人かて後援会の幹事やさかい文句はおませんで」「ありがたいこと!! おおきにおおきに!! こんな嬉しいことはありませんわ。これを失うたら、昔の創設委員の人たちや、二代目の塩野園長と次の稲葉園長、それから昔の先生方にも顔が向けられませんでした。私の時代に火事にかかつて失くなつたといえませんでした。助かりましたわ。なにとぞご主人に、懇々とお願ひしてちょうだいな、この通りです」と、深くお辞儀をしたら、「先生にそんなに喜んでよろ

うたら、私も嬉しおますし、主人も喜びます。持つて来はる日が分かつたら、知らせとくなはれ、倉は用意して待つていますわ」と聞いて、私は大船に乗った思いをして山口さんと分かれた。

そして安心して、子どもらの安全のみを考えることができたのである。翌々日、山口さんのご主人も承知して下さった返事が来たので真にありがたかった。ちようど現役から中支に出征し、観水作戦で発病して療養後除隊になっていた甥がいたので、職場の合間をみて、社長さんの許可で自動車を借り、愛珠から豊中の桜井谷まで運送してもらうことにしたが、出発の間に、家鳩の遊戯の図と幼稚園法の図を別々に包み、二つを向かい合わせて一つにして、茶箱と共に、山口さんの倉へ持つて行った。倉は大きくて広い、そして頑丈な錠前でガチャンと締まり、用心はよく、気兼ねなく拝借することができた。

山口さんの家は別荘風の広い家で、玄関を通らずに風雅な切戸から、前栽を通して、座敷に坐らせてもらったが、築山続きの庭に囲まれ、平戸がずっと植えてあって、よく手はいっていた。門前に一抱えほどの大きい桜の木が生えていて、春はとても美しく、わざわざ花を見に来る人もあるそうで、愛珠の応接室の前に植えていた桜は、この木の子ともだそう、山口さんからももらったもので、以前の母の会の人たちは、これを稚児桜と呼んだそう

である。

雨水を溜めようにも、途中で腐蝕して破れていては、折角の水溜にも流れてこない、破損の箇所は二、三箇所止まらず余程多い。よく点検すると、痛みは大分前からのもので、その後、手はいっていないらしい。皆深くて底に角味を持ち、よく樋受けの金につまんでいるから、創立当時から物らしく思えたので、これは素人にはできないので、本職の樋屋に依頼したら、「ここは別注ですよって、間に合う所は、できるだけ普通のを使い、そうでない所は、今までの物よりちょっと浅うしますわ。あんまり浅いと横から溢れますさかいな。なかなかええ樋で、今時こんなは出来ませんで。ちょいちょい瓦も破れてますよって、今のうちに修繕しときはらんと、雨漏がきたら難儀です」といつてもらったから、手伝さんに、屋根の修繕も頼むこととした。

ちようど三日の後に、冬季休暇がくるから、それまでに準備して、二十五日から正月までの間に、現場の仕事をしてもらうように、屋根屋にも併わせて頼んだ。

三学期が始まって、幼児たちは相変わらず、元気に遊んでいる。休暇中に保護者に依頼した、胸の名札の白布には、住所と幼児名が書かれているから、元気な顔は嬉しいが、交戦の不安に淋しい思いをさせられたのである。

始業式の時に、「名札は何時も付けていて下さい。サイレンの音を聞いたら、すぐ家へ帰って下さいな」と、話している間に、校務員に頼んで置いた、搾半が鳴ったので、かねて練習していたように、各担任は注意深く倉庫の地下室に誘導した。誰も転ばず、押すようなこともなく、泣く子もいなく、倉庫にはいったから、「皆さんは、お正月に一つ年を取って、大きくなったから、上手にここへはいりましたな。上手にできたから、こんな嬉しいことはありませんでした」といって、にこにこしながらほめた。

今日は二月五日だから、次の行事の雛祭の構想を練り、子どもたちに楽しい思い出を残させたい。なにとぞその日はサイレンも鳴らずにいてほしいと、祈らずにはおれなかった。

午後二時過ぎ、塩野吉兵衛さんの宅から、秘書が来られ、「今日は先代の命日で、そのお供養ですので、子どもさんたちに遊んでもらって下さいと、主人からいつかってまいりましたから、お受け取り下さい」と、玩具をたくさん下さった。先代の命日は私は知らなかったが、沿革史によって、豊田、滝山両監事の後、明治二十二年十月に園長の拝命を受け、その後四十五年三月稲葉園長の拝命まで、約二十四年の間園長であったことはよく知っていたし、先日、記念式に来園せられた先生方は、口をそろえて、その頃の塩野園長の心づくしを喜び、ことに式日にはいつもご馳走

と、大きいお膳に赤御飯を、一杯入れて届けて下さったり、幼稚園の種々な什器などは、たいいて塩野さんから寄付していただいたと喜んでおられたので、部下を労うんだなど尊敬していたから、始めてご命日を知った失礼を詫びると共に、お供養をいただいた礼を伝えてもらうよう依頼した。そして帰られてから拝見すると、電車・汽車・飛行機など男児向きの物と、さまざまな人形やままごセットなどの女児向きの物もあって、明朝幼児がこれを見ればさぞ喜ぶことだろうと、私たちがもしばらく楽しんだのである。

翌日会集の時、子どもらにこのことを話すと、果たして声を出してよろこんだ。「これを皆の部屋に分けてあげますから、こわさぬように、仲よく遊ばせてもらいましょう。引っ張り合ったりすると、塩野さんに笑われますよ」と、よく注意をした。そして朝会が済むと、すぐ塩野さんへ挨拶に行った。

幼稚園横の井池筋を南へ行き、二つ目の道修町へ出て左へ曲がった三軒目で、間口が七、八間程もある、古めいた奥行き深い家であった。表には楕円形の稚味ある木版に、株式会社塩野香料と書かれ、入口脇の壁に掛けてある。入口をはいると事務室で、机が六、七脚置かれてあり、三人程店員がおられたので、「愛珠からご挨拶にまいりました」と名刺を渡したら、奥へ持ってはいたが、間もなく昨日の秘書さんが来て、「今主人がおりますからど

うぞお上がり下さい」と招じられたので、店を通り抜けて玄関から奥へ行くと、日本室を洋室に改装した広い座敷の一方に事務机が置かれ、私がいると、一方の丸卓子を指されたから、その椅子を拝借した。

私は昨日の挨拶をして、朝会の時の幼児の喜んだありさまを話すと、塩野さんも、そうでしたかと、満足そうに聴かれた。「幼稚園はこのごろどうですか、大分慣れられましたか、この節幼児はどれ程おりますか、だんだん減ってきているようですが」などの経営面のことを、種々尋ねられた。塩野さんは今、後援会の顧問をして下さっているが、先代が長年園長であっただけに、尋ねられることは皆経営に関係のあることが多かったので、嬉しく思った。塩野さんも愛珠の卒業であり、西隣の塩野義三郎と従兄弟同士で、やはり愛珠を卒業せられ、同じ後援会の顧問をして下さって、幼稚園は何かとお世話を受けている。

「今戦争のために、だんだん疎開してゆくから、子どもの数は少ないですが、私はもつとふやしたいと思っています」といったら、「そうですか？、これから車がだんだんふえるし、高架線ができてきたら、子どもは来られなくなりますよ」といって笑われたが、私も笑ったが、そんなことはもつと先のことで、それまではふやしたいと思っていたのである。今よりずっと後の、そのころ

にはまたそれに応じたように、区内の人たちは考えるだろう。

思うに、昔からこの区内の人たちは、片手に算盤を弾きながら、片方に子弟の教育をゆるがせにしている。豊田さんや滝山さんなども、本町にある懐徳堂で、藤沢南岳に学ばれたし、天文学の研究所や、珠算の塾や、学務員だった樋口弥三郎さんが、私費で美術学校を設けておられたが、東京上野に美術学校が創立せられると、この学校を廃止せられたそうである。何時の時でも、人間啓発に先鞭を打つような、知恵と力を自然に恵まれている幸福な人たちが多いと敬服していた。

幼稚園の裏側の先隣に当たる洪庵塾にしても、塾生たちは、道修町の薬屋から、薬に関する研究の依頼をよく受けていたそうである。はじめ、愛珠へ来るのは嫌であったが、来たために、いろいろな面での勉強ができて、よかったと喜ぶと共に、親の代から在任している人たちの思想は、質実堅固な性情であることに、心から尊敬し、よき場を得たことを感謝して励んだ。私が辞去する時、塩野さんは玄関まで送って下され、秘書さんも塩野さんの後について来られた。

二月十五日に、シンガポールが陥落したので、今日会集の時にこのことを話し、一同で歓ぶと同時に、出征の方々に感謝したが、続いて通達がきて、十八日の午前九時から、戦捷第一次祝賀

のために区内各町を旗行列し、最後に氏神である平野町五丁目の御霊神社に参拝をして、感謝と共に必勝を祈願した。地下室への避難は、練習に止まって、実演をしないで済むことは何より嬉しく思い、改めて深く深く感謝し、戦捷を祈念したのである。

三月三日は楽しい雛祭の日で、後援会の役員方の合議によって調べられ、これまでに有った物よりもっと大きく、そして人形のそれぞれが美しく、とてもみごとな物で、内裏雛をはじめ、随臣・三人官女・五人囃子等、諸道具を、それぞれ五段の棚に配置し、それへ白酒をはじめ、種々な供物を大きい広い机に列べて、遊戯室の正面に飾り、その前に一同が坐って、唱歌を歌ったり、遊戯をしたり、人形の話は私がして、正午前に年少組を終え、一同は保育室にて、雛ずしや草餅を食べ、櫛柑ももらって、午後の年長組と代わり、午前の組と同じようにして、今日の雛祭は無事に終わったが、戦争でなかったら楽しいのと時々心が暗かった。

雛祭も無事に済んだので、やれやれと思ひ、親たちの楽しんで待つている、遊戯会も事故なく、しまいまで観覧してもらいたいと祈った。幸に恵まれて、サイレンを聞くことなく、家族の人たちが待った遊戯会も、入学の歓びを各自胸に燃した卒業式も無事に済ませ、やっと本年度の保育をとおじることができたのである。

私が愛珠へ来て、はじめて卒園児を送ったのだが、この間に、

種々な困難や、喜んだことなどがあって、今日ここまでできたのだが、今後なおどのようなことが起こるか分からないが、皆の助けを得て切り抜け通そうと、強く祈念した。ふと私は記念写真のことを想い出した。それは、撮影技師が出征や転居等ではなかななくて困った時、前任西六園のおばさんに相談したら、以前保護者だった西部さんのおじいさんに頼んでご覧、時々頼まれて写しに行きはるそうです、といってもらったから、私は行って頼み、やっと撮影してもらったので、幼児数は七十三名だったが、六十二回卒園児として、明治十四年以来、一回から今年まで、連続と続いている卒園記念写真の年次に欠けることなく続けられたのは、全く幸いで、感謝なしにはいられなかったのである。

倉橋惣三選集全四巻発売中

- 第一巻 ☆幼稚園真諦
☆子供讃歌
☆フレーベル
- 第二巻 ☆幼稚園雑草
- 第三巻 ☆育ての心
☆就学前の教育
- 第四巻 ☆保育案
☆初期の著作

など、第一巻～第三巻以外の、かつての単行本としてまとめられなかった珠玉の論文、随筆、揮毫。

B6判・特製本

各巻定価 700円 発行フレーベル館